



「RBA行動規範」と パニックバーの深いつながり

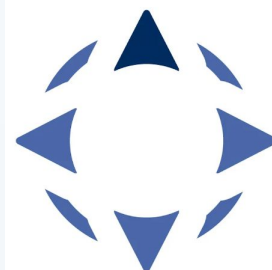
～世界基準の安全性で、ビジネスの絶対条件をクリアする～

RBA行動規範とは？

世界で信頼されるための 「ビジネスの絶対ルール」

RBA（責任ある企業同盟）とは、労働環境や安全、環境保護など、企業が守るべき社会的責任の国際基準です。

現在、世界的なトップ企業（Apple、Teslaなど）がサプライチェーン全体にこの基準の遵守を「取引の絶対条件」として求めており、グローバルビジネスにおける必須のパスポートとなっています。



Responsible Business Alliance

Advancing Sustainability Globally



RBAを支える重要な柱



労働・倫理

すべての従業員の人権を尊重し、適正な労働時間を守り、公正で誠実なビジネスを行うことを約束します。



環境・管理

環境汚染を防ぎ、資源を保護します。また、これらのルールが継続して守られる管理体制を構築します。

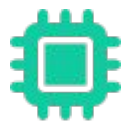


安全衛生

働く人の命と健康を守るための、最も重要な項目です。**緊急時における安全な避難体制の確保**を強く求めています。

日本国内でRBA準拠を「迫られる」企業とは？

かつては「大手電子メーカー」だけの話でした。しかし現在は違います。



電子・半導体業界

スマホやPC関連の部材メーカー。
Appleなどの強烈なトップダウン
により、いち早く厳格な対応が求
められています。



自動車・EV産業

「車は走る電子機器」となった
今、自動車メーカーだけでなく、
車載バッテリーや部品メーカーも
RBAの対象に急拡大しています。



二次・三次サプライヤー

【最重要】 大企業だけでなく、そ
の下請けとなる素材加工や部品組
み立てを行う**日本国内の中小工場**
もすべて対象となります。

なぜ「準拠せざるを得ない」のか？

違反 = サプライチェーンからの「排除」

RBAの最大の特徴は、頂点に立つグローバル企業が末端の下請け企業まで**連帯責任**として監査することです。

もし、日本の地方にある部品工場の一つでもRBAの基準を満たしていなければ、最悪の場合「**取引停止（契約打ち切り）**」という致命的なペナルティが下されます。

さらに、日本国内の人手不足を補う「外国人労働者」が増加する中、労働環境の国際標準化（安全衛生の確保）は、企業存続のための絶対条件となっています。



日本の常識が通用しない？ 厳しい「RBA監査（VAP）」

RBAには第三者機関による非常に厳しい現地監査（VAP監査）があります。

ここで多くの日本企業が「安全衛生（緊急避難）」の項目でつまずきます。



日本の常識（国内法）

- 「日本の消防法や建築基準法をクリアしているから大丈夫」と考えがち。
- 防犯や情報漏洩を防ぐため、非常口や工場間の扉に鍵（サムターン等）をかけていることが多い。
- 非常時は「カバーを割る」「鍵を回す」などの手順が必要。



⚠ RBA監査の判定

- 日本の法律を満たしていても関係ありません。
- 避難経路のドアに「鍵」がかかっている（サムターンを回す動作が必要な）場合、
【重大な違反（避難障害）】として一発アウト（不適合）になります。
- パニック状態でも瞬時に出られる設備でなければ認められません。

「日本の常識（レバーハンドル）」に潜む、致命的なリスク

i レバーハンドルは「安全」か？

日本の建築基準法や消防法では、非常口に「レバーハンドル」を設置することが広く認められており、これまでの慣習となっています。

RBA監査においても、日本の実情を考慮し「サムターン（鍵）がなければ、レバーハンドルでもギリギリ容認される」ケースがあります。

※しかし、海外の工場では「押すだけのパニックバー」が標準であり、レバーハンドルは決してグローバルな「ベストプラクティス」ではありません。

🔥 しかし、パニック時には…

火災や地震が発生し、恐怖に駆られた群衆が非常口に殺到(群衆雪崩)した極限の状況を想像してください。

- ・後方からの凄まじい圧力により、ドアの最前列の人は扉に激しく押し付けられます。
- ・その状況で「手を使ってレバーを押し下げる」という動作を行う余裕は果たしてあるでしょうか？

「監査をギリギリ通る最低基準」に甘えることは、本当の意味で従業員の命を守ることには繋がらないのです。

そこで問われる「究極のハードウェア」

RBAの理念を完全に体現し、確実に命を守るためには、物理的な設備の改善が不可欠です。

- 明確な避難経路：誰が見ても分かりやすい出口の設置。
- 障害物の排除：非常口までの経路に物を置かない徹底管理。
- 究極の物理的対策：パニック状態に陥った際でも、一切の思考や「手の動作（レバー操作）」を必要とせず、ただ体をぶつけるだけで外へ逃げられる設備の導入。

この厳格な要件を完璧に満たす「グローバルスタンダードの唯一解」こそが、当社が提供するソリューションです。



解決策：ゴールドマンが提供する「パニックバー」



ワンアクションで瞬時に命を救う

パニックバーは、建物の非常口に設置する世界標準の「緊急退避装置」です。

ドアに取り付けられた横長のバーに「**体重をかけて押すだけ**」。

鍵を開けたり、レバーを下ろしたりする必要は一切ありません。

パニック状態に陥った群衆がドアに押し寄せたとしても、その「圧力」自体を利用してドアが自動的に開き、安全かつ瞬時に外へ脱出することができます。

パニックバーがもたらす圧倒的な安全性と監査対応

究極のワンアクション退出（RBA監査完全クリア） バーを押すだけで瞬時に解錠・開扉。日本の特例



に依存せず、VAP監査における「避難障害」の指摘をグローバル基準で完全に防ぎます。

すべての人に優しいユニバーサルデザイン お子様、お年寄り、車椅子の方、あるいは荷物や負傷で両



手が塞がっている状態でも、体や肘でバーを押すだけで簡単に脱出可能です。

防犯（セキュリティ）との完全な両立 内側からは「押すだけ」でいつでも出られますが、外側からは



鍵がかかっています。情報漏洩や不審者の侵入を防ぐ「日本の防犯ニーズ」と「RBAの避難ニーズ」を見事に両立させます。

パニックバー = RBA遵守の強力な証



RBA

「命を最優先する姿勢」の証明

RBAが求める「安全衛生（緊急時の備え）」を言葉だけでなく、物理的な設備として体現するものがパニックバーです。この装置を導入することは、「自社の従業員の命を守る」だけでなく、グローバルサプライチェーンにおいて「**当社は妥協なく世界基準の安全を確保している企業である**」という、取引先への最も強力なアピールとなります。

世界標準の安全が、 企業の価値を守り抜く

当社のパニックバー導入は、
単なる防災対策ではありません。

STRENGTHENING HUMAN SECURITY
AND RESILIENCE WORLDWIDE

厳しいRBA基準をクリアした

「世界基準の安全な職場」を実現し、

グローバルビジネスにおける

貴社の生存と成長を力強くサポートします。

